

文化財を地域で守る 「荒木家住宅」で火災想定訓練

1月25日、文化財防火デーに併せて比和町森脇地区にある国指定・重要文化財「荒木家住宅」で火災想定訓練が行われ、地元住民を含む18人が参加しました。

荒木家住宅は、17世紀末(江戸時代初期)に建てられた森脇八幡宮の神官の家で、神官の家の特徴でもある「たかま」や牛を飼育するための「だや」、農業をする「土間」などがあり、約400年前の建築様式や生活様式を今に伝えている重要な文化財です。



消火器の使用方法を学ぶ住民

訓練は、庄原消防署高野出張所から防火設備の使用方法や初期消火の重要性など熱心な指導を受けながら行われました。

参加者は、「普段、なかなか経験できない訓練を受けることができよかった。地域の財産である荒木家住宅を将来に受け継いでいけるよう大切に守っていきたい」と話していました。

文化財防火デーは、今から58年前の昭和24年1月26日に、国宝である法隆寺金堂が炎上し壁画が焼損したことを契機として定められたもので、全国で文化財の防火運動が展開されました。



口和と安芸津が柔道交流 柔道スポーツ少年団交歓会

2月10日・11日の両日、東広島市の安芸津柔道スポーツ少年団と口和少年柔道教室の冬季交歓会が開催されました。

安芸津から団員・保護者ら35人と口和の団員・保護者ら40人が参加。

今年で18回目となるこの交流は、例年スキーやソリなどを行ってきましたが、今年は暖冬のため、柔道の合同練習や口和運動公園に雪を運び、ソリ遊びなどで友好を深めました。

夏には安芸津で海水浴を中心とした交歓会を予定しています。



坂道に運んだ雪で遊ぶ子どもたち



柔道の合同練習

親子で歓声!県民の森で交流 スマイルトーク雪遊び

西城保健福祉総合センターしあわせ館で活動している西城子育て応援サークル「スマイルトーク」では、みんなが自由に気軽に集える場として、月2回の集いのほか、季節に応じてさまざまな行事を開催しています。

1月31日には、「雪遊びを楽しもう!」と、0歳から4歳までの子どもたちと保護者15人が県民の森スキー場に出かけました。県民の森は新雪が積もって一面の銀世界。今年はほとんど雪を見ることができないせいか、子どもたちは喜んで雪の中に駆け出していきました。親子で一緒にソリに乗って滑ったり、スノーモービルに乗せてもらったり、思い切り雪遊びを楽しみました。

スマイルトークでは、3月11日(日)にファミリーコンサートを予定しています。



ソリを楽しむ親子

雪遊びで友だちづくり 本小学校で山の子・海の子交流

本小学校と江田島市の沖小学校の交流会が2月9日、本小学校で行われ、子どもたちが雪遊びなどを楽しみました。

山の子と海の子が交流することで、お互いの生活環境の違いや良さを体験しながら、友だち作りをしようと、2校による交流が始まりました。

今回で3回目となるこの日は、江田島の子どもたちに雪遊びを体験してもらおうと、1週間前から本小学校の保護者らが県民の森などからダンプトラックで雪を運び巨大な雪山を作成。雪がめったに降らない江田島の子どもたちと、雪不足で寂しい思いをしていた庄原の子どもたちが一緒になって、ソリや竹スキー、雪合戦などを楽しみました。



2校の子どもたち



雪山で夢中になって遊ぶ

沖小学校の津村まり子校長は「周りには全く雪がない中、この雪山を見てびっくり。昨夏の断水の時も給水に来ていただき、本当に感謝・感激。沖小学校は今年度で閉校になりますが、とてもいい思い出になりました」と話していました。

赤ちゃんに「愛情」を語りかけて! 高野中2年生が絵本などをプレゼント

2月1日、高野福祉保健センターで行われた乳児相談会場へ、高野中2年生23人を代表して生徒4人が訪れ、町内のゼロ歳児に絵本などが入った「ブックスタートパック」をプレゼントしました。

ブックスタートは、1992年にイギリスで始まった活動で、ただ絵本を手渡すだけでなく、絵本を開く楽しい体験にあたたかなメッセージを添え、赤ちゃんの健やかな成長を応援する活動です。

昨秋に行った職場体験学習の販売実習で得た収益金を活用し、当日参加の5組の母子に、手書きのメッセージカードと共に手渡しました。「こんにちわ どうぶつたち」の絵本を読み聞かせた松島翔太君は、「絵本を開いて話しかけると、赤ちゃんが僕をじっと見つめてくれた。ちゃんと話がわかるみたいで嬉しかった」と話していました。



絵本を読み聞かせる生徒

節分行事で園児の健康を願う 口和の園児が豆まきと餅つき

今年1年病気をせず、健康で元気に遊べるようにと、口和の保育所が節分行事を行いました。

聖慈保育園(園児21人)は2月2日、「君田温泉森の泉」の節分祭に参加しました。今年で2回目の参加で君田保育所の園児と一緒に、歌をうたったり踊ったりして、楽しい交流をしました。その後、節分恒例の鬼が現れ園児たちは大騒ぎ、「鬼は外・福は内」と元気に豆をまき、中には鬼の怖さに泣く子もいました。

また、みどり園保育所(園児52人)では2月3日、保護者と一緒に餅つき会を行いました。節分の時期に毎年恒例の行事で、園児たちは杵で餅をつき、自分でもみ、程よい大きさに切り、ぜんざい・きな粉餅にして食べました。園児たちは「やわらかくて、美味しかった」と話していました。



聖慈保育園



みどり園保育所

くまのこころのカメラレポート
各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

中・高校生と音楽家が演奏 総領で管楽アンサンブル交流会

1月28日に里山総領体育館で、総領公民館主催の第4回管楽アンサンブル交流会が開催されました。

県北の吹奏楽部から中・高校生19組と一般1組が参加し、木管8重奏「アヴェ マリア」など20曲を演奏し、日頃の練習の成果を発表しました。第2部は、広島市内で活動している



音楽家の演奏

音楽家13人が、打楽器・木管・金管それぞれ数曲を演奏し、会場の皆さんも素晴らしい演奏に聞き入りました。

また、プロとして活躍している音楽家から、生徒たちは熱心に演奏指導を受けていました。



家族で楽しんだ「かまくら作り」 高野の冬を楽しむ会

1月27日・28日の両日、大鬼谷オートキャンプ場と農家民宿「ひげおやじの館」で1泊2日の体験イベント「高野の冬を楽しむ会」が開催されました。

高野で観光ワークショップに参加しているメンバーが「たかの543」というグループを結成し、雪国体験イベントを初めて企画。

今年は暖冬による雪不足の中、メンバーは雪を集め、かまくら作りのための準備を行いました。当日は、県内各地から8家族25人が参加し、かまくら、スノーランタン作りを体験しました。

かまくらは20人程度が入られる非常に大きなものができ上がり、夜になるとかまくらの周りに作ったスノーランタンが幻想的な光を放ち、参加者はかまくらの中で振舞われたしじ汁などを味わいながら、冬の夜を楽しみました。

2日目は参加者全員で冬のスポーツ「雪合戦」を体験し、子どもたちの声が響きわたる中、最高の盛り上がりとなりました。

参加者の一人は「かまくらは作りは、達成感があり最高でした」と話していました。



今年度、庄原市は観光による地域興しを目指すため、市民と一緒に考える「観光ワークショップ」を旧市町の7地域で実施しています。



20人が入った巨大なかまくら

元オリンピック選手が スキー指導 スポーツ選手ふれあい指導事業

1月26日、元サラエボオリンピック日本代表、岩谷高峰さんが県民の森スキー場を訪れ、西城の3校の小学生にスキーの指導を行いました。

これは、トップアスリートとのふれあいを通して子どもたちにスポーツの楽しさを教え、スポーツに取り組むきっかけを作ることを目的としています。

元オリンピック選手の指導を受けるのは全員が初めてのことで、緊張の中、スキー教室が始まりましたが、岩谷さんの楽しく丁寧な指導に子どもたちものびのびとスキーを楽しみ、目覚しい上達をみせました。

大勢の保護者や地域の皆さんから指導補助の協力があり、岩谷さんは「先生や保護者、地域の講師の皆さんの情熱が感じられ、熱気のあるスキー教室でした。素晴らしい環境を生かし、多くの子どもたちがスキーを続け楽しさを知ってほしい」とメッセージを贈りました。



岩谷さん(中央)から基本を学ぶ



手前が「蛤びな」

「九日市」で250点の手作りびな 手仕事ギャラリーおひなさま展

2月9日に庄原市街地で行われた「九日市」で、手仕事ギャラリーおひなさま展が行われました。

手仕事グループの8人が製作した手作りびななど約250点を展示。

「かわいい」と言って、買い物客は足を止め、和紙と蛤はまぐりを使った「蛤はまぐりびな」や1枚の和紙に切り込みを入れて折った「古典折りびな」を見ながら、作者から作品の説明を受けていました。



天野さん(左)の説明を聞く買物客

作者の天野カツミさんは「身の回りにあるものを利用し、和紙のすばらしさを伝えていきたい」と話していました。

作って楽しい 触れて温かい 手作りおもちゃ交流会

2月8日、東城地区の民生・児童委員の呼びかけで「手作りおもちゃ交流会」がこどもの館で開催され、乳幼児とその家族約30人が参加しました。

牛乳パックやペットボトル・プリン容器などを使って、動く自動車を作り、マジックや色テープで模様をつけました。できあがったばかりの自動車で遊ぶ子どもを見ながら、お母さんたちは「荷台にお菓子を載せて、おやつをだすと子どもが喜ぶだろうね」と微笑んでいました。

主催した民生・児童委員の政野邦子さんは「試作品を作るなど準備は大変でしたが、お母さんたちの情報交換や交流のきっかけになってくれたらうれしいです」と話していました。



自動車を作る親子

育児を楽しもう にこにこ子育て講演会

2月10日、東城地域子育て支援センター(小奴可保育所)で、「にこにこ子育て講演会」が開催されました。

山陽学園短期大学の村中結季子先生が「子どもの発達と親の役割」と題して講演。約50人が参加しました。

「親の愛情は子どもに多大な効果を与えるが、反面大きすぎる期待は子どもの負担になる」「動物は本能で子育てをするが、人間は意思力・忍耐力・努力によって子育てをする」「父・母・祖父母・地域の方それぞれに子育ての役割がある」など、実例を挙げながら分かりやすく子育ての課題と解決方法を話しました。

参加者は、「話にいっきに引き込まれ、あっという間に時間が過ぎてしまいました」「楽しかった。来てよかった。まだまだ聞きたかった」などと話していました。



子育てを熱く語る村中さん